

2004. 11. 12

佐川克弘

琵琶湖の底が抜けた？ S14 シミュレーション！！

早速ですが第3回3ダムSWG資料1-2p4を見て下さい。「琵琶湖水位変化図」で S14. 8月1日のBSL[⊖]0.6mが31日には[⊖]1.3mに低下したと読みとれます。それに対してH6実績は8/1がBSL[▲]-0.61m、8/31は-1.04mでした。

そこで私は別紙の通りH6実績とS14シミュレーションとの比較を試みました。詳しくは比較表を見ていただきたいのですが、河川管理者のシミュレーションが正しいとすればS14年に琵琶湖の底が抜けて「水漏れ」するか、日本中の原発を琵琶湖湖畔に集めて琵琶湖の水を沸騰蒸発させない限り説明できないことになってしまいます。

あるいは私の比較の仕方が悪いのかもしれませんが。流域委員会として河川管理者に説明を求めていただきたくお願いいたします。

以上

H 6 実績, 新シュミレーション比較表

単位: B S L = c m

水量 = 千 m^3

雨量 = mm

	H 6	S 1 4
① 8 / 1 現在 B S L	- 61	- 60
② 8 / 3 1 現在 B S L	- 104	- 130
③ 一日当たり減少水量	9, 349	15, 219
④ 淀川下流取水量 / 日	5, 861	5, 861
⑤ 河川維持流量 / 日	6, 048	6, 048
⑥ (⑤に対するカット量)	1, 951	
⑦ (④ + ⑤ - ⑥)	9, 958	11, 909
⑧ (③ - ⑦)	- 609	3, 310
⑨ 6 ~ 8 月累計降雨量	208	275

注 (1) ③の計算式 (H 6 の場合)

$$43 \text{ (cm)} \times 674 \text{ (km}^3\text{)} = 289, 820 \text{ 千m}^3$$

$$289, 820 \div 31 = 9, 349$$

※ S 1 4 も上に準ずる

(2) 淀川下流取水量は H 6 > S 1 4 であるが、ここでは両者は同一と仮定した。

(3) H 6 には 8 / 22 ~ 31 の 10 日間大川で 15 m^3 / S 流量調整されたので下式により一日当たりのカット量を求めた。

$$15 \times 86, 400 \times 10 \div 31 \approx 1, 951 \text{ 千m}^3$$

(4) ⑧がマイナスであることは琵琶湖に水が補給されたことを意味する。